2014年度 活動報告書

2015.06.18／03

特定非営利活動法人 子どもデザイン教室
代表理事 和 田 隆 博
〒546-0035 大阪市東住吉区山坂4-5-1
TEL 06-6698-4351　FAX 06-6698-4352
MAIL info@c0d0e.com　URL c0d0e.com

ご寄付くださったあなた様、物品をご提供くださったあなた様、ボランティアにご参加くださったあなた様、受講生の保護者様、児童養護施設の職員様、企業の皆様、皆様のおかげでここにご報告するたくさんの、そして、意味のある活動を1年間続けることができました。いくら言葉を重ねても感謝の言葉をいい尽くせません。

本当に、本当にありがとうございます。

特定非営利活動法人 子どもデザイン教室
代表理事 和 田 隆 博

目　次

子どもデザイン教室のミッション……04

学習支援：子どもデザイン教室事業……06

学資支援：子どもデザイン基金事業……16

養育支援：子どもサポートホーム事業（個人事業）……23

2014年度 決算報告書……27

子どもデザイン教室のミッション

●人は愛されないと愛せない。

子どもデザイン教室の理念は、親と暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会にすることです。親の貧困や病気・虐待が原因で、親と暮らせない子どもたちは全国に約48,000人います。そのうち児童養護施設の場合、原因の約50%が虐待や育児放棄といった親の問題行動です。平成24年度の虐待件数は約66,700件になっています。こうした子どもたちの問題に愛情不足よる自尊感情の低さがあります。自分は価値がある、愛されているという自尊感情は、心身を健康に保つために必要不可欠な感情です。なぜなら人は誰かに愛されないと、人は誰かを愛することができないからです。

●施設児童の4つの苦痛

社会的養護の中でも児童養護施設で暮らす子どもたちには4つの苦痛があるといわれています。それは、①厳しい生活環境を生き抜いてきたサバイバーであるという「施設入所前の苦痛」、②施設入所時における家族や友人と別れ、生まれ育った家庭環境を離れるという「分離の苦痛」、③プライバシーの少なさ、強いられる集団生活、わがままが利かない不自由な生活という「生活上の苦痛」、④準備ができないまま15〜18歳で退所せざるを得ないという「自立の苦痛」の4つです。退所する子どもは寄宿舎のような共同生活から一転して自立をせざるを得ません。頼れる身寄りが少なく、お金も知識も少ないままの自立に多くの子どもは孤立感に苛まれます。

●一般世帯の1/4の進学率

一般世帯の子どもの68%が大学や専修学校に進学します。これに対して、児童養護施設の子どもの進学率はわずか16%です。これは一般世帯の進学率の約1/4です。また、一般世帯の高卒から大学院卒までの新卒者のうち、平均初任給15万円以下は11%です。これに対し、児童養護施設退所者の退所後10年以下のうち、平均月収15万円以下は46%です。これは一般世帯の初任給の約4倍です。児童養護施設退所後10年以下の退所者の約半分が月収15万円以下で暮らしています。

●連鎖する貧困

そもそもの経済的な事情やこうした学歴から就職は困難で、親と暮らせない子どもたちは定職に着きにくい傾向にあります。それは住み込みが条件といった住居の制約の面からも職業選択の幅が狭められています。さらに対人関係の難しさもあり、無知ゆえに受けられるべき権利が受けられず、未保障になりがちという課題もあります。頼れる身内の少ない親と暮らせない子どもたちは、いざというときのセーフティネットがなく、ホームレスに近いところへ一挙に転落する可能性があります。そのことが貧困層を自動的に形成する原因にもなっています。

この問題で憂慮すべきは、こうした貧困が連鎖するという点です。子どもの貧困率が16.3%となりました。貧困で育った子どもたちがチャンスに恵まれずおとなになり、また次の貧困を生んでいます。こうした児童養護施設出身者が社会的に排除されている状態が今、社会問題の一つとして顕著化しています。

●子どもデザイン教室の3つの挑戦

そこで私たち子どもデザイン教室では、親と暮らせない子どもたちが施設退所後に自立生計できるよう、2007年から3つの支援をしています。それは、①学習支援：子どもたちが自分自身の将来を自分で設計できる力を長期的に育てる「子どもデザイン教室」、②学資支援：企業や商品

のキャラクターを子どもたちと制作し、その収益金の25%を子どもたちの自立資金に、残りの75%をその他の親と暮らせない子どもたちの学習資金にする「子どもデザイン基金」、③養育支援：親と暮らせない子どもたちを代表の和田が養育里親として育てる「子どもサポートホーム」の3つです。こうした支援が独創的なのは、幼少期から施設退所時まで一貫して子どもたちに生きる技術を教え、子どもたちの自立心（将来を設計する力）を育てる点にあります。

●子どもデザイン教室の最大の特徴

子どもデザイン教室のレッスンは、少人数の子どもたちに5年10年と長い時間をかけて実施されています。それは1日だけのイベント、一過性の支援ではありません。長期的支援に拘る理由は、提供するサービスが「教育」だからです。教育とはすぐに成果が見えるものではありません。すぐに効果が現れる場合もあれば、まったく成果が出なかったようで、40歳、50歳になって始めて効果を現す場合もあります。だからこそ子どもデザイン教室のレッスンが必要なのだと考えています。親と暮らせない子どもたちは頼れる身内や十分なお金といった社会的資源が多くありません。子どもデザイン教室の支援はそうした子どもたちにずっと続けて併走し続ける本質的な教育支援です。この点が子どもデザイン教室の最大の特徴といえます。

●心に太い幹を育てたい。

この長期的なレッスンが効果的な理由の一つは、自尊感情を育てる点です。親と暮らせない子どもたちは軸となる人間が少ないことから、自尊感情が育ちにくいことがあります。生まれ育った家庭を離れ、ときに最も信頼すべき親から虐待を受け、その後の児童養護施設での生活でも親代わりとなる施設の職員は、配置転換や退職などの理由から一定ではありません。児童養護施設の職員で3年以内の離職者は49%と、全体の約半数です。親と暮らせない、軸となる人間がいない、もしくは転々と変わる、こうした場合、子どもは心を安定させるのに苦労します。ときにうまくいかなくなることもあります。そうした点から視覚や感性といった普段使うことの少ない思考回路を刺激し、想像力と努力する心を育てるレッスンにはアートセラピー的な癒やし・ヒーリング効果があります。そして、このことで子どもたちは、安心して育つための心の礎を築くことができるのです。

●きっと社会は変えられる。

子どもは未来からの贈りものです。しかし、日本の社会保障費約103.5兆円のうち、親も含めた家族への支援費はわずか約5%です。少子化、財政難、資源のない日本で、おとなになってから税金で保障するより、子どもの頃からその内的資本を育てた方が効率がいいのはいうまでもありません。児童養護施設などの社会的養護では衣食住は保障してくれますが、施設退所後の生活までは保障してくれません。私たちは子どもたちの自立心を育てるという子育てに必要不可欠な部分を地域コミュニティの一員として育てることで、よりよい次世代によりよい未来を託そうと考えました。私たちは親と暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会に、デザインの力（将来を設計する力）で変えられると信じています。

学習支援：子どもデザイン教室事業

【子どもデザイン教室】

●レッスンのコンセプト①：点ではなく、線のレッスン

子どもデザイン教室では、①創造力、②努力する心、③対話力の3つの力を育てています。おとなになれば誰でも困難に遭遇します。その困難を乗り切るには、問題を解決する柔軟な思考力、さらに、努力する心、そして、発想を人に伝えられる力が必要です。しかし、こうした基礎能力はなぜか学校や塾では教えてくれません。スポーツクラブでも根性論が大勢で、個人の能力差がはっきり現れる競争社会が基本です。

また、試験勉強は得点を上げるためのレッスンです。こうした試験勉強は「点」のレッスンでしかありません。なぜなら、試験はその子の人生の「点」でしかないからです。一方、子どもデザイン教室のレッスンは、その子の人生に影響を与える「線」のレッスンです。子どもデザイン教室では、薄皮を1枚ずつ重ねるような地道な教育支援をしています

●レッスンのコンセプト②：入力ではなく、出力のレッスン

試験勉強はインプット（入力）のレッスンともいえます。問題解決をできる子より、たくさんの問題を解ける子が優れていると評価します。しかし、いくら勉強をしてもアウトプット（出力）＝考えを外にだす方法を知らないと、その勉強はほとんど意味がありません。子どもデザイン教室のレッスンが重要なのは、アウトプット＝考えを外にだす技術、つまり、アイデアを創造し、発信する力を育てているからです。

想像力といっても誰も無から有は生み出せません。すでにある有を組み合わせ、新たな有を生みだすのです。そして、こうして新しく生み出されたアイデアで世の中をよりよくしていくのです。子どもデザイン教室では、これからの時代に必要な力＝創造力を「遊びながら学ぶ」という手法で育てます。なぜなら、遊びの中にこそ学びがあり、諦めずに努力する心が育つからです。

●レッスンのコンセプト③：昭和ではなく、平成のレッスン

かつての高度成長社会では、大量生産大量消費を是とした社会でした。そのためには従順な会社人間の量産が必要でした。しかしバブル崩壊、リーマンショック、東北大震災を経験し、社会は明らかに変容しました。しかし、多くの人がまだ昭和の高度成長社会から頭を切り換えられずにいます。その結果、努力して入った大きな会社に長年勤めた末路がリストラだった。よくある話です。

子どもデザイン教室と試験勉強の違いは、そもそもの発想の違いにあります。昭和の高度成長社会ではなく、平成の成熟社会に対応できる人間を育てています。例えば、試験勉強では『タイヤは何でできている？』と問います。答えは『ゴム』です。なぜなら、試験の答えは一つで、正しい答えを求めたいからです。しかし、その結果は合格か不合格かでしかありません。一方、子どもデザイン教室は『どんなタイヤが考えられる？』かを問います。答えは『4色のタイヤ、かわいいタイヤ…』たくさんの答えを求めます。なぜなら、現実社会の答えは一つではなく、この多様な社会で「正しい」は人の数だけあるからです。こうして子どもデザイン教室では、創造力・努力する心を育て、多様な環境に適応できる人を育てています。

●新カリキュラムがスタートしました。

2014年度、子どもデザイン教室はレッスンスタイルを新しく変更しました。大きな変更点は、子どもレッスンの開講日を火曜日・木曜日・土曜日の週３回にしたことと、おとなレッスンの開講日を金曜日の週１回にしたことです。カリキュラムは年間を通してのレッスンとなり、上半期は「商品を作る」、下半期は「商品を販売する」をテーマにしました。そして、そのゴールは、子どもたちが作ったお人形やピンバッジを教室で展示販売することです。このカリキュラムを通して、子どもたちは様々な問題に遭遇し、問題解決の基本である「想像力と対話力」を学びます。また、造形とコンピュータを学び、自信＝自尊感情を高めていきます。

特に親と暮らせない子どもたちの多くは、将来の見通しが利きにくい状況にあります。そこで、こうしたレッスンを5年10年と続けることで、想像力、努力する心、対話力といった問題を解決する力を学んでいきます。しかし、これらは親と暮らせない子どもたちに限った話ではありません。どんな子どもでも小さい頃から想像と対話を繰り返すことで自信をもち、「自分の将来を設計できる人」になってほしいと考えています。以降に2014年度のカリキュラムを各月ごとにご報告します。

●4月のレッスン「外に出かけよう」をしました。

5月からの本格始動の前段階として、4月は「外に出かけるレッスン」をしました。花びらなど春のモチーフを採取し、それをデジタルカメラで撮影し、コンピュータで春のポストカードにしました。小学校１年生もイラストレータやフォトショップを使って描きました。最後に絵からイメージする文章を考えて完成です。絵は心の映し鏡、色使いなどその子らしさがはっきり現れます。中学生ともなると文章もしっかりしてきて、成長を実感しました。

最初の外出では『これホトケノザやで！』など、子どもたちは物知りです。玄関を一歩踏み出しただけで、こんな都会でもたくさんの自然が溢れていることに感動しました。子どもたちは自然を体で感じて、それをコンピュータで絵にするという不思議な体験をしました。最後に印刷されたポストカードをみたときの驚き顔、誇らしげに家に持ち帰る姿は自信を得たことの証明でもあります。

●5月のレッスン「お菓子作りをしよう」をしました。

このレッスンはお菓子作りをテーマに、誰かに食べてほしいクッキーのアイデアを絵にし、形にし、食べてもらう。そんなレッスンでした。不特定の誰かに食べてもらうためのクッキー、そんな意外な視点が子どもには新鮮だったようです。『これ、いくらで売れるやろ？』『はよ食べたい！』『もっとこんなレッスンがしたい！』と大好評でした。イキイキともの作りをする子どもたちを見ていて、もの作りはなぜ楽しいのだろう？学習って何だろう？そんなことを改めて考えました。

可塑というものを作りだす喜びは、大きくは命を創りだす喜びと同じ、生きものとしての根源的な喜びに繋がっていると思います。クッキー作りの過程で子どもたちは何を学び取るのか？それは売ったり食べたりという生きるための営みや喜びではないかと思います。だから子どもは素直に楽しさを感じとれるのでしょう。心理学者ピアジェによると「知識がかたまりを形成していく過程に学習がある」のだそうです。これからもそんな感覚的に体感できるレッスンを大切にしていきたいと思います。

●6月のレッスン「お人形作りをしよう」をしました。

プランニングシートに描いたキャラクターをもとに、アクリルファイバーを針で差し固め、お人形作りをしました。最後にコンピュータでデザインしたラベルをつけると、一人前の商品になりました。忍耐力と細部に技巧のいる作業を完遂することで、自尊感情の向上をめざしました。

●7月のレッスン「わかるかなカルタを作ろう」をしました。

7月は「わかるかなカルタ」の2014年度版に挑戦しました。「わかるかなカルタ」とは学校で習った算数や国語の問題と答えをカルタにし、皆で遊ぼうというカードゲームです。1週目にアイデアを出しあい、2週目はアナログによる手作業、3・4週目にコンピュータで仕上げました。小学校低学年が理解できる程度の問題と答えを描いて、さらに4〜5歳の子どもでも直感的に答えが分かるように色や形に工夫をしました。そうした情報伝達のデザインの仕方、算数や国語の勉強を遊びながら学びました。

●8月のレッスン「絵本を作ろう」をしました。

8月の課題は絵本作りでした。テーマは「どうしてうまくいかないんだろう？」です。1週目にアイデアを出し合い、2週目に背景を描き、3週目に主人公を描き、4週目に仕上げました。普段の暮らしの中でうまく行かないこと、大人たちへのメッセージを絵や文字にしてみました。言語化しにくい思いを外部化することで物事を客観視し、気持ちを整理する作法を学びました。

●9月のレッスン「ピンバッジを作ろう」をしました。

9月は自分で考えたキャラクター人形のピンバッジを作りました。陶器のように固くなるフィモ粘土でお人形を作り、ピンバッジにしました。１週目は紙粘土で試作品を作りました。２週目は陶器粘土で本制作しました。3週目からはラベル作りをしている間に販売用に数を増やしました。こうした製造行程を通して、買う人のことを考える、無駄なくたくさんのものを作るのはどうしたらいいのか？作る楽しさや社会の仕組みを学びました。

●上半期の反省と下半期の対応

上半期は、お菓子作り・お人形作り・ゲーム作り・絵本作り・ピンバッジ作りをしました。その目的は、①創造する方法と努力する喜びを体感することに加え、②遊びの中から現代社会の仕組みを会得すること、③計画的に物事を作り上げる習慣を身につけること、④アナログ造形とコンピュータ技能を会得すること、の4点でした。デザインするには相手の立場を考える必要があります。自分だけの視点でなく、俯瞰的な視点でものごとを見る、その作法を学びました。

しかし、その反面、反省すべき点はこうしたレッスンは時間的な強制力が強く、子どもたちが自由に遊ぶ楽しさを制限する側面がありました。この反省を踏まえ、自由な楽しさも味わってもらおうと、下半期は時間的な制限を外してレッスンを進めるようにしました。このため、下半期は子どもたちにとってあまり意味のない作業はスタッフが代替し、時間の有効活用をしました。

●10月のレッスン「お店を考えよう」をしました。

2014年度のゴールは子どもたちが作ったお人形やピンバッジを展示販売することです。そこで10月は2015年3月に開催した作品展示販売会用のお店（ショーケース）のデザインをしました。1週目でお店のイラストを描き、2週目からお店の展示台を段ボールで工作しました。段ボールのお店はこの10月と3月で完成の予定でしたが、想像以上の難作業で、11月にも課題レッスンの合間に工作を進めました。

●11月のレッスン「ポストカードを作ろう」をしました。

11月はコンピュータでポストカードを作りました。ポストカードは自分のキャラクターをデザインしたもので、クリスマスカードや年賀状に使えます。今月は順番でコンピュータを操作し、それ以外の子はお店作りの続きをしました。

●12月のレッスン「ポスターを作ろう」をしました。

12月はコンピュータでポスターを作りました。ポスターは2015年3月に開催した作品展示販売会用のポスターです。ポスターでは自分のキャラクターを主人公に、いつ、どこで、何を売るのか？などのお店の宣伝内容を考えました。すっかりコンピュータ操作に慣れた子どもたち、作業はスムーズに捗りました。

●1月のレッスン「コマーシャルを作ろう」をしました。

2015年になりました。1月はiMovieというコンピュータソフトでお店の予告編（コマーシャル）を作りました。コマーシャルはこの1年のダイジェストアルバムでもあります。コンピュータでの編集作業に四苦八苦しながらも、子どもらしいウィットに富んだコマーシャルに仕上げました。

●2月のレッスン「開店の準備をしよう」をしました。

今期もあと1ヶ月となりました。2月は子どもたちの進捗が揃っていないこともあり、従来3月に実施予定の「開店の準備をしよう！」レッスンを先に開講しました。これまで作った作品の簡易版を量産しながら、全員の足並みを揃えました。

●3月のレッスン「ポップコーンを作ろう」をしました。

3月はポップコーンを作りました。1週目に2月の残りの値札を仕上げ、2週目にポップコーン作りをしました。3週目にポップコーンのラベルをコンピュータで作り、4週目は3月29日㊐に開催された作品展示販売会用の印刷など、最終の調整作業をしました。

●作品展示販売会を開催しました。

3月29日㊐、2014年度に作ったピンバッジ・葉書などを各自で作ったダンボール製のショーケース（お店）に展示して販売会をしました。販売した収益はそのまま子どもたちのお小遣いにしました。あいにくの雨にも関わらず、たくさんのお客さんにお越し頂き、ほぼ完売の71,850円の収益となりました。施設の職員さんによると、帰宅した子どもが大興奮で大喜びだったそうです。ご来場の皆様、ご協力頂いたボランティアの皆さん、ありがとうございました。参加者はご来場者を除いて39人でした。

○日時：3月29日㊐ 10：00〜15：00
○場所：大阪市営住宅・南田辺団地内集会所

●キッズクリエーター認定証を授与しました。

3月29日㊐に開催した作品展示販売会における皆の頑張りを賞賛しました。最初に当日の模様の上映会をし、参加者一人一人にキッズクリエーター認定証を授与しました。さらに、全員に当日の売上をお給料（？）として配分しました。努力を目に見える形にすることは重要です。認定証を子どもたちに渡すとき、普段はふざけてばかりの子もびっくりするくらい大まじめでした。

●2014年度の実績

年間146日・791回開講し、延べ1,161人の子どもたちに「遊び×学ぶレッスン」を提供しました。回答者延べ835人中、満足と応えた子ども延べ719人で、平均満足度は86%でした（区別する意味がないため、一般家庭の子どもを含んでいます）。現在、2015年度の新しいレッスンがスタートしています。皆、のめり込むようにレッスンに打ち込んでいます。また来年度もこのように素晴らしい活動報告ができるように創意と努力を重ねたいとと思います。

○4月の参加者
延べ104人（参加した子どもの総数）
満足度調査は実施せず
○5月の参加者
延べ109人（参加した子どもの総数）
満足度76%（回答者25人中、満足と応えた子ども19人)
○6月の参加者
延べ103人（参加した子どもの総数）
満足度88%（回答者79人中、満足と応えた子どもの数70人)
○7月の参加者
延べ89人（参加した子どもの総数）
満足度93%（回答者延べ61人中、満足と応えた子ども57人)
○8月の参加者
延べ88人（参加した子どもの総数）
満足度85%（回答者延べ81人中、満足と応えた子ども69人)
○9月の参加者
延べ91人（参加した子どもの総数）
満足度82%（回答者延べ78人中、満足と応えた子ども64人)
○10月の参加者
延べ87人（参加した子どもの総数）
満足度86%（回答者延べ91人中、満足と応えた子ども78人)
○11月の参加者
延べ93人（参加した子どもの総数）
満足度93%（回答者延べ126人中、満足と応えた子ども117人)
○12月の参加者
延べ103人（参加した子どもの総数）
満足度88%（回答者延べ95人中、満足と応えた子ども84人)
○1月の参加者
延べ102人（参加した子どもの総数）
満足度78%（回答者延べ50人中、自分は70点以上と応えた子ども39人)
○2月の参加者
延べ95人（参加した子どもの総数）
満足度86%（回答者延べ78人中、自分は70点以上と応えた子ども67人)
○3月の参加者
延べ97人（参加した子どもの総数）
満足度77%（回答者延べ71人中、自分は70点以上と応えた子ども55人)

○4月の開催日／72回
1日・8日・15日・22日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
3日・10日・17日・24日㈭ 16：15～17：15・17：30～18：30
4日・11日・18日・25日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○5月の開催日／78回
13日・20日・27日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
1日・8日・15日・22日・29日㈭ 16：15～17：15・17：30～18：30
3日・10日・17日・24日・31日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○6月の開催日／72回
3日・10日・17日・24日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
5日・12日・19日・26日㈭ 16：15～17：15・17：30～18：30
7日・14日・21日・28日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○7月の開催日／72回
1日・8日・15日・22日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
3日・10日・17日・24日㈭ 16：15～17：15・17：30～18：30
5日・12日・19日・26日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○8月の開催日／72回
7月29日・5日・19日・26日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
7月31日・7日・21日・28日㈭ 16：15～17：15・17：30～18：30
2日・9日・16日・23日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○9月の開催日／60回
2日・9日・16日・30日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
4日・11日・18日・25日㈭ 16：15～17：15
6日・13日・20日・27日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○10月の開催日／60回
7日・14日・21日・28日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
2日・9日・16日・23日㈭ 16：30～17：30
4日・11日・18日・25日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○11月の開催日／65回
4日・11日・18日・25日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
6日・13日・20日・27日㈭ 16：30～17：30
1日・8日・15日・22日・29日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○12月の開催日／60回
2日・9日・16日・23日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
4日・11日・18日・25日㈭ 16：30～17：30
6日・13日・20日・27日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○1月の開催日／60回
6日・13日・20日・27日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
8日・15日・22日・29日㈭ 16：30～17：30
10日・17日・23日・31日㈯ 10：00～12：00・16：00～18：00
○2月の開催日／60回
3日・10日・17日・24日㈫ 16：15～17：15・17：30～18：30
5日・12日・19日・26日㈭ 16：30～17：30

7日・14日・21日・28日㊏ 10：00～12：00・16：00～18：00
○3月の開催日／60回
3日・10日・17日・24日㊋ 16：15～17：15・17：30～18：30
5日・12日・19日・26日㊍ 16：30～17：30
7日・14日・21日・28日㊏ 10：00～12：00・16：00～18：00

【子ども絵本教室】

●「子ども絵本教室」が終了しました。

2013年6月から月1回のペースで開催してきた「子ども絵本教室」が4月のレッスンで最終日を迎えました。午前中はコンピュータで編集し、全員が絵本を完成することができました。午後からは遊びの問題解決レッスン「かんけり」をしました。参加者22人に加えて補講参加者2人で無事全行程を終了しました。大阪府下の児童養護施設を中心に母子生活支援施設・里親委託の子どもたちを集めてそれぞれ一冊の絵本を創作した「子ども絵本教室」。たくさんのボランティア、タイガーマスク基金の助成、日本情報技術取引所の昼食サービス、有志の画材ご提供に支えられての開催でした。この場をお借りしてこうした多くのボランティアの方々に改めて謝意を表したいと思います。ありがとうございました。

「～だったらいいのにな」をテーマに16冊の絵本ができました。内容は友だちがほしかったり、強くなりたかったり、多彩な内容でした。絵の描き方の練習から始め、お話しを考え、文章にし、サインペン・絵の具・パステルで絵を描きました。最後はコンピュータで編集し、製本作業を経て、きれいな一冊の宝物ができあがりました。お話は時間的な制約もあり、深いお話にはなりませんでした。結論のない絵本もあります。しかし、発表会では一生懸命に塗り込んだ絵が大きなスクリーンから溢れ、子どもたちは頑張った自分とはっきり出会えました。

最後に修了証書を渡しました。一人ずつ読み上げているとき、この1年間で成長した自分と出会っている顔がそこにありました。アンケートでも「凄く自信がついた」の答えが多く、『終わるのが悲しい』『友だちができた』という意見がありました。最初は話しも聞いてくれなかった子どもも、後半にはきっちり話すと納得してくれるようになりました。「子ども絵本教室」は出しにくい自分の思いをだす場、また、絵を描くことで自信をつける場と考えていました。施設だけではフォローしきれないメンタル面をサポートする場です。最終日の製本作業でも途中で遊びだすなど、なかなか大変な場でもありました。子どもたちのわがまま＝甘えたい気持ちを受け止めるおとなたちにはしんどい場でもありました。しかし、それでも毎回楽しめたのは、やはり子どもたちの成長に触れる喜び、交流の楽しさにほかありません。

一番意外な収穫は、違う施設の子ども同士が友だちになれたことです。微妙な恋愛関係まで生まれ、施設ではなく、第3の居場所となったと思います。これでこのレッスンは終了しようと思っていました。しかし、子どもたちから『続けてほしい』との要望があり、引き続きゆるキャラを作り、それを企業などに提供し、寄付・業務委託に繋げ、その収益の一部を子どもたちの自立資金にしようというプログラムを開催することにしました。このレッスンの狙いは、社会との繋がり、デザイン技能を磨くことで、子どもたちの自信を育てることです。これからも一層のご支援をよろしくお願いします。

○4月の開催日
19日㊏ 10：00～15：00

○5月の開催日（補講）
17日㊏ 10：00～15：00

＊2013年度のレッスンは前年度に報告済みのため省略

【こどキャラ教室】

●新たに「こどキャラ教室」を開講しました。

6月から新たに児童養護施設や母子生活支援施設のお子さんを対象に「こどキャラ教室」を始めました。企業からご依頼いただいたキャラクターを作り、その対価やご寄付を子どもたちに還元し、生活支援システムを作るというユニークなプログラムです。大阪を代表する企業である蓬莱さんの社内報のイラストを描きました。8月は息抜きに水鉄砲遊びなども楽しみました。2014年度は年間10日・10回開講し、延べ61人にレッスンを提供しました。

○6月の開催日
21日㊏ 13：00〜15：00
○7月の開催日
19日㊏ 13：00〜15：00
○8月の開催日
16日㊏ 13：00〜15：00
○9月の開催日
20日㊏ 13：00〜15：00
○10月の開催日
18日㊏ 13：00〜15：00
○11月の開催日
15日㊏ 13：00〜15：00
○12月の開催日
20日㊏ 13：00〜15：00
○1月の開催日
17日㊏ 13：00〜15：00
○2月の開催日
21日㊏ 13：00〜15：00
○3月の開催日
21日㊏ 13：00〜15：00

【おとなアート教室】

●「おとなアート教室」を開催しました。

毎週金曜日、おとなデザイン教室を開催しました。絵本を作る人、人形を作る人、イラストを描く人、それぞれがご自身の課題に取り組むフリータイムレッスンです。完成までしっかりサポートしました。2014年度は年間49日・49回開講し、延べ109人にレッスンを提供しました。

○4月の開催日
7日・11日・18日・25日㊎ 19：00〜20：00
○5月の開催日
2日・9日・16日・23日・30日㊎ 19：00〜20：00
○6月の開催日
6日・13日・20日・27日㊎ 19：00〜20：00
○7月の開催日
4日・11日・18日・25日㊎ 19：00〜20：00
○8月の開催日
8日・15日・22日・29日㊎ 19：00〜20：00
○9月の開催日
5日・12日・19日・26日㊎ 19：00〜20：00
○10月の開催日
3日・10日・17日・24日㊎ 19：00〜20：00
○11月の開催日

7日・14日・21日・28日㊎ 19：00～20：00
○12月の開催日
5日・12日・19日・26日㊎ 19：00～20：00
○1月の開催日
9日㊎・15日㊍・23日㊎・30日㊎ 19：00～20：00
○2月の開催日
6日㊎・13日㊍・20日㊎・27日㊎ 19：00～20：00
○3月の開催日
6日㊎・13日㊍・20日㊎・27日㊎ 19：00～20：00

【その他のイベント】

●「お花見パーティとお別れ会」をしました。

長居公園でお花見と副理事の酒井さんの退職記念パーティをしました。午前中はケイドロやお弁当を食べ、満開の桜の下で一人ずつ写真をとりました。午後からは皆でデコレーションケーキ作りをしました。パーティの最後に子どもたちから酒井さんに寄せ書きが手渡され、一人ずつお別れの言葉をかけていきました。私も感慨深いものがありました。この7年間、子どもデザイン教室がここまで来られたのは何よりも酒井さんの尽力によるものです。この場を借りてその多大な功績に改めて謝意を表します。本当にありがとうございました。またいつでも遊びにきてください。参加者は34人でした。

○日時：4月5日㊐ 10：00～15：00
○場所：大阪市営住宅・南田辺集会所

●児童養護施設・常照園のバザーに参加しました。

吹田の児童養護施設・常照園のバザーに行ってきました。正会員の永富さんとデザイン教育研究所の学生さんたちを連れて、似顔絵コーナーを開催しました。似顔絵描きの醍醐味は15分ほどの時間で、絶対に失敗できない緊迫感です。飽きっぽい子どもを飽きさせず、必ず『似てる』とか『凄い』とか納得してもらわないといけません。この真剣勝負は快感です。しかもバザーの場合、子どもたちの記念になり、おいしい屋台フードも食べられ、いうことのない1日となりました。

○日時：11月5日㊐ 10：00～19：00
○場所：児童養護施設・常照園

●「クリスマス会」を開催しました。

12月21日㊐、南田辺集会所「クリスマス会」を開催しました。屋外ゲームの隠れ鬼ごっこ、お弁当、隠し芸大会、クリスマスケーキ作り、プレゼントタイムを楽しみました。賛助会員の大田さん、井上さん、宮崎さん、西井さんのご寄付やご寄贈を頂きました。心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。参加者は25人でした。

○日時：12月21日㊐ 10：00～15：00
○場所：大阪市営住宅・南田辺集会所

●「未来っこカーニバル」に参加しました。

12月23日㊋、門真のなみはやドームで、大阪府下の児童養護施設の子どもたちが一同に会するイベント「未来っこカーニバル」にボランティアの永富さんとデザイン教育研究所の学生さんたちを連れて参加し、似顔絵コーナーをボランティアで担当しました。主催者様より当日使用した画材をご寄付頂きました。ありがとうございます。

○日時：12月23日㊋ 09：00～15：00
○場所：なみはやドーム

学資支援：子どもデザイン基金事業

子どもデザイン基金事業は、親と暮らせない子どもたちの学習資金を貯める学資支援事業です。これは子どもデザイン教室のレッスンから生まれてくる作品を商品化し、企業に販売するというものです。こうして生まれた商品を「こどキャラ」ブランドと呼称し、その収益を児童養護に還元するユニークなビジネスモデルです。この収益金の25%を親と暮らせない子どもたちの学習資金として子どもたちの銀行口座に貯金し、残りの75%をその他の親と暮らせない子どもたちのレッスン費用に充当します。日本の企業数は約4,338,000社です。一方、親と暮らせない子どもたちは全国に約48,000人います。1社が1人の子どもを収益を上げながら継続的な支援をする、そんな新しい福祉モデルを提唱しています。

【4月】

●ファンドレイジング事業をしました。

本年度は事業収益の柱をファンドレイジングにしました。ファンドレイジングとは社会貢献活動の資金を個人や法人から集めることです。主な方法はSNSやセミナーなどを通じて多くの人と出会うことから始めました。そして、児童養護問題を啓発し、ご寄付や物品提供に繋げたいと考えました。また、子どもたちとデザイナーが共作したゆるキャラ「こどキャラ」を無料配布し、寄付に繋げ、親と暮らせない子どもたちに学習資金を供給するシステムの構築をめざしました。

ファンドレイジング事業の課題は、①人員不足のため施策がどれも中途半端になり、計画通りに実行できなかったこと、②賛助会員（2015年度の呼称はキッズサポーター）が前年度の134人から112人に減ったこと、③Webリニュアルと決済システムの導入が遅れたため、継続寄付者の獲得が進まなかったこと、の3点です。

○成果
・賛助会員 111人（計画150人・達成率74%）
・寄付金 2,299,131円（計画1,200,000円・達成率191%）
・寄贈品 383,215円（計画400,000円・達成率96%）
・自立資金 169,609円（計画240,000円・達成率70%）

○賛助会員内訳
・個人会員 219,000円（50人）
・継続会員 24,000円（2人）
・正会員 37,000円（8人）
・役員 390,000円（6人）
・法人会員 1,506,031円（8社）
・児童養護施設 39,000円（11人）
・支援家庭 84,100円（26人）

○寄贈品内訳
・ふーどばんくOSAKA様よりお菓子約346,000円相当
・ありさだあきよ様より絵本ダンボール1箱分
・大田香織様より電池76本・絵本2冊・クリスマス会用お菓子
・大和真理子様よりクリスマス会用プレゼント
・宮崎恵美様よりクリスマス会用プレゼント・販売会用服飾雑貨
・井上翔一様より作品展示販売会用ポップコーン材料一式

●企業様の広告のお仕事をしました。

子どもデザイン教室のご支援として様々な企業・法人様にご協力を頂いています。4月は羽衣国際大学様からご依頼を頂き、今年のオープンキャンパスの広告を制作しました。また、フライパンメーカー様の広告の提案をさせて頂きました。さらに、無料広告相談を随時お受けし、多くの企業・法人様との出会いの場にしました。そして、ワードプレスによるホームページの制作や広告制作業務の受託に繋げました。こうした業務は子どもデザイン教室の広告制作事業部として活動しました。しかし、後述しますが、10月に事業縮小と経営効率化をしたため、その他事業である広告事業は本来の事業者であった綿屋デザインファクトリーに戻し、広告事業からは撤退しました。

【5月】

●日本保育学会のシンポジウムに登壇しました。

5月18日㈯、日本保育学会第67回大会のシンポジウムに登壇し、国立精神神経医療研究センターの前田基成先生、應典院の齋藤佳津子先生、大阪城南女子短期大学の松本敦先生と「子どもを守るアートの試み」というテーマでお話をさせて頂きました。「美術や造形行為がなぜ自尊感情を高めるのか？」という実験の結果と様々な脳科学のデータ、また、私たち現場からの報告も交えて、約2時間の意見交換をしました。その結果、子どもデザイン教室の考え方や取り組みは正しかったことが立証されました。

シンポジウムの結論は、言語化されにくい感情を美術・造形行為で外部化することで自分に気づく、そのことが自尊感情の高まりの起因になっているというものでした。私は『自尊感情はその子と相対、共視する誰かの承認によって芽生え、やがてその子と誰かの間で育まれ、次にその子の中で大きくなる。つまり、自尊感情はその子の外側から内側へ入っていく。したがって、その誰かの存在がとても重要だ』という意見を述べました。

【7月】

●ふーどばんくOSAKA様よりお菓子を寄贈頂きました。

ふーどばんくOSAKA様より、ゼリーやプリンなど、大量のお菓子をご寄贈頂きました。年間約20万円ほどかかるお菓子代は、ふーどばんくOSAKA様のおかげで大幅に軽減することができました。レッスンの場を和ませるためにも、お菓子やジュースの存在は重要です。精神的な安心感を得るという面でも、子どもたちにとって楽しみな時間になっています。前述と重複しますが、総額346,000円相当のご寄贈を頂きました。ありがとうございます。

●国際里親会議IFCAの研修会に参加しました。
国際里親会議IFCA（インターナショナル フォスターケア アライアンス）の研修会を子どもデザイン教室で開催しました。当日はカナダからの学生も交え、海外の先進的な里親養育の現状を学ぶことができました。

○日時：9月13日㈰ 12：00～18：00
○場所：子どもデザイン教室

【10月】

●大阪ガス様の「CSRレポート」に子どもたちの絵が採用されました。
　2013年度に引き続き、大阪ガス様の「CSRレポート」の表紙を飾ることになりました。さらに今年は、CSRレポートに加えて「5つのストーリー」という冊子の表紙と中面にも子どもたちの絵が登場しました。大阪を代表する企業さんにご支援を頂いて、子どもたちの喜びもひとしおです

●中国向けに活動紹介ビデオの撮影がありました。
　親と暮らせない子どもたちが描いたかわいいパッケージの高機能パンツ「不思議忍者」の中国向け販売を機に、中国の方にも子どもデザイン教室の活動を知って頂こうと中国向けのPRとして日本龍之昇中文台の方が取材に来られました。

○日時：10月18日㈯ 10：00～14：00
○場所：子どもデザイン教室

●社会的養護に関する法律の勉強会がありました。
大阪弁護士会の子どもの権利条約委員会と児童養護施設の職員さんによる定期勉強会が子どもデザイン教室でありました。テーマは「未成年後見人」について。弁護士さん、施設の職員さんらが熱心に意見交換をしました。

○日時：10月22日㈯ 19：00～20：00
○場所：子どもデザイン教室

【11月】

●D&Pの勉強会で活動紹介をしました。
　大阪で高校生の進路支援や中途退学防止に取り組むD&P（ディービー）の公開勉強会で、子どもデザイン教室の活動紹介をしました。あわせてキャラクター作りのワークショップもしました。新たな賛助会員の方やボランティアの方と新たなネットワークができました。

○日時：11月10日㈪ 18：00～21：00
○場所：エートス法律事務所

●第12回街づくり夢基金の助成金に選ばれました。
11月16日㊏堺産業振興センターで第12回 街づくり夢基金の助成金の最終審査でプレゼンテーションが行われ、選考の結果、助成金を頂戴しました。頂いた助成金は、後述の映画「隣（とな）る人」対話型上映会の上映費用の一部にすべて使わせて頂きました。

【12月】

●阪急百貨店様で活動紹介をしました。
　12月６日㊏、阪急百貨店様で子どもデザイン教室の活動紹介とミニデザイン教室を開催しました。たくさんのお客様が熱心に聞き入ってくださいました。

○日時：12月6日㊐ 11：10〜11：40・14：10〜14：40
○場所：阪急うめだ本店9階・祝祭広場

●阪急百貨店様に専用募金箱が設置されました。
　11月26日㊌から12月9日㊋まで、阪急百貨店様に子どもデザイン教室専用の募金箱が設置され、ご寄付を頂きました。ありがとうございます。

○日時：11月26日㊌〜12月9日㊋
○場所：阪急うめだ本店9階・祝祭広場「H2Oサンタチャリティガイド」

●「関西ネットワークシステム in 京都造形芸術大学」に登壇しました。
　産官学民の大規模交流会にて「子ども×デザインで何ができる？」というテーマのミニパネルディスカッションに登壇しました。

○日時：12月13日㊏ 13：00〜20：00
○場所：京都造形芸術大学

●「コアデザインアワード2014」に登壇しました。
　人のコア（核心）に光を当て、それを収益性のある事業にデザインする「コアデザインコンサルタント」の普及をめざした式典「コアデザインアワード2014」のパネルディスカッションに登壇しました。

○日時：12月28日㊐ 10：30〜16：30
○場所：日比谷コンベンションホール

●「こどキャラ」の年賀状印刷を承りました。
　新年のご挨拶に、子どもデザイン教室に通う親と暮らせない子どもたちが描いたイラスト「こどキャラ」を使った年賀状を販売しました。経費を除いた利益の25％は学習資金として子どもたちの銀行口座に貯金し、残りの75％をその他の親と暮らせない子どもたちのレッスン費用に充当しました。お買い求め頂いた皆様にお礼申し上げます。

●ホームページをリニュアルしました。

分かりやすさと支援のしやすさを考えて、ホームページをリニュアルをしました。広報メールは毎月1回、従来通り配信しました。しかし「こどキャラ」パンフレットや「こどキャラ」プロモーションビデオ、近鉄百貨店のNPO向けイベントスペース・縁活の利用は、企画をしたものの時間的な制約から実施には至りませんでした。

●組織を改編しました。

4月の副理事の酒井さんの退職を控え、2013年の秋から事業の拡大を画策し、スタッフを増やしましたが、私の見通しの甘さからまたたく間に事業は頓挫しました。そこで10月に人員を大幅に縮小し、和田と林田の2人体制で再スタートを切りました。幸い、子どもデザイン教室は1人で運営できるシステムを構築していたため、事業に支障をきたすことはありませんでした。また、2015年度はこの反省を踏まえ、最小の費用で最大の効果が発揮できる基盤を確立しました。

【2月】

●映画「隣（とな）る人」の対話型上映会を開催しました。

関西テレビ放送・大阪ガス・子どもデザイン教室の共催で「ソーシャルシネマダイアログ@カンテーレ in ワン・ワールド・フェスティバル」と冠し、映画「隣（とな）る人」の対話型上映会（シネマダイアログ）を開催しました。映画「隣る人」は、埼玉県の児童養護施設・光の子どもの家の8年間の日常を追ったみずみずしいドキュメンタリー映画です。

当日はほぼ満席、300名様のご来場者があり、このなかから13人の方が賛助会員になってくださいました。また、対話の時間のテーマは「家族」。あなたの「隣る人」は誰ですか？あなたは誰の「隣る人」ですか？を話し合いました。支え合っている人に想いを馳せる、とても暖かない時間を共有することができました。こうして児童養護問題の関心が高まれば、少しずつでも世の中はよくなっていくと信じています。何より児童養護問題への関心の高さを感じる1日でした。

○月日：2月8日㊐ 12：30〜15：00
○場所：関西テレビ1階・なんでもアリーナ
○主催：関西テレビ・大阪ガス・子どもデザイン教室
○協力：信頼資本財団

●文部科学大臣賞・未来大賞を受賞しました。

子どもデザイン教室が、文部科学省・厚生労働省後援住友生命社会貢献事業「未来を強くする子育てプロジェクト」で文部科学大臣賞・未来大賞を受賞しました。表彰式は2月23日㊊、東京のホテルニューオータニで行われました。これもすべてご支援頂いている皆様のお陰です。ありがとうございます。

●阪急百貨店様の「NPOフェスティバル」に参加しました。

2月15日㊐〜19日㊍、阪急百貨店・梅田本店で開催の「NPOフェスティバル」に参加しました。フェスティバルでは子どもデザイン教室の活動紹介や、代表の和田が講師を勤める扇町総合高校の吹奏楽部・オーギーズによるミニコンサートなどのイベントがありました。2月18日㊌・19日㊍ はスタッフが常駐し、PRタイムを実施しました。期間中、ご来場の皆様からご寄付を頂きました。ご寄付頂いた皆様、ありがとうございます。

○日時：2月15日㊐～19日㊍ 11：00～17：00
○場所：阪急うめだ本店9階・祝祭広場

●自動継続の寄付システムがスタートしました。

お忙しい皆様が手軽にご寄付頂けるシステムがスタートしました。これで、わざわざ銀行や郵便局に出向いて頂く必要がなくなりました。ご寄付はクレジットカードと銀行引き落としの2つの方法からお選び頂けます。例えば、1日あたり約100円のご支援（毎月3,000円）で、親と暮らせない子ども1人が6回分のレッスンを受けられます。サービス会社はクラウドペイメントです。

この他の寄付支援ツールの運用実績は、ソフトバンクのかざして募金の運用開始、セールスフォースの無償プログラムの申請完了、リンクスフォーグッドの申請が完了しました。この他、ペイパル、ジャストギビングは継続中、グッドゥーは契約を中止しました。

【3月】

●大阪ガス様「癒やしの音楽会」でご寄付を頂きました。

3月6日㊎、大阪ガスグループ“小さな灯”運動主催「第58回癒やしの音楽会・高曲伸和＆テレマン アンサンブルJr. バロックへのいざない」が大阪ガスの本社ホールで開催されました。この際、子どもデザイン教室のために185名の皆様からご寄付を頂きました。重ねてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

●セミナー＋ワークショップ「こどカフェ」を開催しました。

2月22日㊐と3月8日㊐・22日㊐「親と暮らせない子の今を知るセミナー＋おとなデザイン教室ワークショップ」を開催しました。子どもたちが抱える痛みとは？原因は何か？どうすればいいのか？をお話ししました。セミナーのあと、ワークショップを開催し、春をテーマにパステル画にチャレンジしました。参加者は合計11人でした。

●FM西東京の「ファザーリングラジオ」に電話出演しました。

3月21日㊏、FM西東京の「ファザーリングラジオ」に電話出演しました。日本一のイクメン集団ファザーリング・ジャパンの創設者である安藤哲也さんと電話で対談し、子どもデザイン教室の活動内容とその意義についてお話させて頂きました。

●大阪市ボランティア・市民活動センターの情報誌などに掲載されました。

大阪市ボランティア・市民活動センターの情報誌「COMVO」4月号の巻頭ページに掲載されました。子どもデザイン教室の活動、親と暮らせない子どもたちにもたらすデザインレッスンの効果についてご紹介頂きました。ほかにも福祉新聞「渚の風」第3号に掲載されました。

●イーサポート様の「小町特上」のパッケージに子どもたちの絵が採用されました。

子どもデザイン教室仕様の煎茶「小町特上」が楽天市場で発売されました。親と暮らせない子どもたちが描いたかわいいパッケージに、国産京宇治の煎茶が100g入って1,080円で販売されました。製造・販売はイーサポート株式会社様です。この「こどキャラ」商品のデザイン料の内25％は二人の自立資金に、残りの75％はその他の児童養護施設の子どもたちの学習資金にしました。

●アスト様の「不思議忍者」のパッケージに子どもたちの絵が採用されました。

親と暮らせない子どもたちが描いたかわいいパッケージの高機能パンツ「不思議忍者」が発売されました。主に海外からお越しの観光客向けにお土産として販売されるため「不思議忍者」という名称になりました。製造・販売はアスト株式会社様です。イラストは児童養護施設で暮らす小4のMちゃんと中1のSちゃんが描いたうさぎの忍者です。この「こどキャラ」ブランド商品は、その収益が親と暮らせない子どもたちの自立支援や学習資金になります。そこで、商品のデザイン料の内25%は二人の自立資金に、残りの75%はその他の児童養護施設の子どもたちの学習資金にしました。今後もこうした子どもたちと作った社会貢献型商品「こどキャラ」の品揃えをますます充実してまいります。

●551蓬莱様からご寄付を頂きました。

大阪のスーパーブランド、551蓬莱様からご寄付を頂きました。このご寄付で2015年度の「こどキャラ教室」を開催することができます。「こどキャラ教室」は年12回、毎月第3土曜日に大阪府下の児童養護施設・母子生活支援施設のお子さんを対象にしたデザインレッスンです。子どもデザイン教室の活動は、こうした皆様からの暖かいご支援で成り立っています。皆様のご支援に心から感謝申し上げると共に、これからもより一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

●正会員・役員を一新しました。

来る2015年度を控え、理事・正会員を一新することにしました。新しい役員・正会員は、これまでボランティア活動をしてくださった方のなかから、今後も具体的に活動に参加してくださる方で構成することにしました。これにより、これまで以上に有意義な活動ができるものと期待しています。これまでの役員・正会員の皆様のご尽力に感謝すると共に、今後、なお一層の重点的な活動を実行することをお約束します。

養育支援：子どもサポートホーム事業（個人事業）

私には忘れられない言葉があります。それは両親と暮らせないある小学校4年生のつぶやきです。彼女は言いました。『なんもええことあらへん、生まれ変わったら、お母さんと暮らしたい』と。この言葉は衝撃的でした。そして、私を突き動かす原動力になりました。子どもサポートホームは親と暮らせない子どもたちを養育里親として育てる養育支援事業です。先の学習支援にしろ、学資支援にしろ、子どもたちの根源的な問題を解決する手段ではありません。モンテッソーリが『愛情は教育では育たない、愛情は愛情でしか育たない』と言及したように、子どもたちには愛情のある暮らしが必要です。愛されたいという子どもたちのニーズは、同じ屋根の下で共にごはんを食べ、共に寝る。そんな安定した暮らしのなかで初めて満たされます。

このため、私は養育里親として親と暮らせない子どもたちを育てています。そして、2017年度には6人の子どもを3人以上の養育者で育てる第2種社会福祉事業であるファミリーホーム（旧称：小規模住居型児童福祉施設）の設立をめざしています。この事業のコンセプトは、①社会的養護の実践、②養育技術の研究、③新しい家族の形の提言、の3点です。なかでも血縁がなくても家庭的な環境で暮らしていける「新しい家族の形の提言」は私の大きなテーマです。8月の新聞に『児童虐待件数、平成25年度7万件超え』の記事が載りました。平成23年度に6万件に迫ったと話題になっていたので、この2年間で1万件以上増えた計算になります。児童養護問題は緊急を要する課題です。私の取り組みは、個人が積極的に社会的養護に関与するというユニークな試みです。親と暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会に、私たちで変えられると私は信じています。

【4月】

●新たに女の子と暮らし始めました。

4月から新しく女の子と暮らすことになりました。おとなになるまで一緒に暮らす予定です。20歳を過ぎても就職や一人暮らし、結婚などの支えになりたいと考えています。1人の人間が人を十分に愛せる限界は1人から2人です。その点から、私は社会的養護の理想形は里親養育だと考えています。

しかし、里親養育は他者の目が届きにくいため、密室性の問題や新たな虐待の可能性があります。また、里親個人の養育方針に里子は従わざるを得ないという社会性の希薄さもあります。加えて、一挙に人間関係が悪化したり、負のスパイラルに陥ったりしやすいという問題点があります。この点で里親養育にもその限界があります。とはいえ、里親の数をもっと増やし、社会的養護の土壌を広げることは喫緊の課題です。そうした手立てを方策するのも私のこれからのミッションです。

●養育里親の難しさ

1月から育て始めた男の子に手を焼きました。毎日毎日、些細なことから想定外のことまで様々な問題が起こり、この些細なことの積み重ねが次第に心をすり減らしました。この原因は「愛され方を知らない」の一言につきます。我慢できる些細なことでも意地を張り我慢しません、わざと逆なでしては叱られる。叱られては安心しているようでした。些細なことが積み重なると悪いスパイラルが生まれます。振り返るとこの間、私はずっと疲弊していました。私ほど里親に理解のない家族にはさらにしんどいようでした。

好きにさせていると、家の中は穏やかになりますが、好きなことだけさせる親はいません。注意すると一悶着が起きますが、いうべきことはいわないといけません。こういうとき、許容範囲を広く持つと問題は問題でなくなります。しかし、許容範囲を広くもつということは、放任、ほったらかし、無責任ともとれます。 そのあたりの裁量に苦労する毎日が続きました。

【5月】

●家庭的養護の疑問

里親は家族全員の総意がないとできません。家族にはそれぞれ里親や社会的養護に対する考えに温度差があります。そのなかで家族の総意を得るのは一苦労です。厚生労働省は家庭的養護の推進を唱えますが、家族全員の賛同は現実的に難しいものがあります。児童養護施設のような職能チームでの養護にも課題はありますが、家族という特有の価値観をもった集合体で養護するのも問題だらけです。社会的に普遍化された価値観を職能チームで共有し、家庭的環境で育てるべきではないか？そんな思案が巡ります。

【6月】

●男の子がお家に帰りました。

１月から一緒に暮らしていた男の子がお家に帰りました。お家に帰れることになって大喜びしている子どもを見ていると、心をすり減らした里親委託の意味を考えます。どんなに愛情をかけても、価値観が違えば子どもには辛いだけの日々です。例えば、夕食の煮魚などは私たちにとっては価値のあるものですが、マクドナルドがいい子どもには価値のないものです。

里親の委託期間の長さと、勉強や生活態度といった養育・躾けの兼ね合いは悩ましい問題です。もし、その子との暮らしが1日だけだったら勉強などしなくても『可愛いね〜』で済みます。しかし、これが10年となるとそうはいきません。では5年では？1年では？そもそも委託期間が決まっていない子とはどう養育方針を立てればいいのでしょう？良好な人間関係を築くための許容範囲は委託期間によって変ってきます。一生懸命育てていても、突然お家に帰る子や、ぜんぜん思いの伝わらない子もいます。その脱力感や空しさは相当です。大袈裟ですが、無の境地でいないとしんどくなるときもあります。だからといって機械のようにはなれません。何とも悩ましい問題です。しかし、こうした力の入れ様、抜き様を探すのも解の一つなのでしょう。

【7月】

●これからの社会的養護の形とは？

ある日の夕方、仕事場のドアを開けると、前方にこの5月まで一緒に暮らしていていた男の子が立っていました。聞くと『友だちにいじめられた』とおおべそです。『お家に帰り』というと『いやや、俺なずっとここにおる。そしたら一保（一時保護所）にいけるねん』といいました。実親宅に戻っても、彼の中の『愛されたい』は満たされていないようでした。

彼の家が私の家の近くということもあって、こうして措置解除されたあとも彼の元気を確認することができます。私はこの関係は社会的養護の一つのあり方ではないかと考えます。これは実親、里親、児相、社会の4者による社会的養護システムです。実親宅が不安定になれば、里親宅で子どもを育ることもできます。近所に暮らしているので実親の不安もなく、子どもには第3の居場所になります。こんなシステムが小学校区ごとにあっていいのではないでしょうか？

【8月】

●自宅１階を子ども部屋に改装しました。

2013年度の夏からファミリーホームの予行演習として、自宅近くのハイツで暮らしていました。しかし、児童相談所や家族間での意見調整がうまくいかず、このいわば里親宅を自宅に戻すことにしました。やはり一つ家族が別々の暮らしをしているのは健全ではありません。結果的にファミリーホームは一旦断念することにしました。そこで、子どもデザイン教室を近くに移転し、自宅１階を委託児童専用の部屋に改装することにしました。今後はここで２～３人の子どもを育てていく予定です。

【9月】

●週末里親になりました。

自宅１階を委託児童専用の部屋に改装する工事が一段落しました。2015年度からはここで２人の子どもを育てていく予定です。そのような計画もあって、新たに女の子の週末里親になりました。これからゆっくりとその距離を縮めていきます。

【10月】

●毎日が淡々と過ぎることの幸せ。

2人の子どもとの生活が淡々と過ぎていきました。朝『おはよう』に始まって、朝ご飯を食べて、お弁当をもって学校にいって、帰ってきたらバイトにいって、一緒に夕食を食べて、今日のできごとを話して、宿題をして、お風呂に入って『おやすみ』といって終わる。毎日同じことの繰り返しです。改めて考えないと気づかないのですが、これが幸せなのだと思います。また、様々な問題を内包しながらもこうした日々が送れること、家族の協力に感謝しています。

【11月】

●社会的養護の新しい形を提案します。

一旦、断念していましたファミリーホームの設立を、再度前向きに進めることにしました。ファミリーホームは何度も断念している事業ですが、人にはどうしても諦めきれない夢があります。私の理想とするファミリーホームは、複数の社会的養護の推進者たちとシェアハウスのように集まって、ファミリーホームを運営するというものです。一方、厚労省の養育指針ではファミリーホームは「夫婦・家庭的環境での支援」を明示しています。しかし、実子も含めて家族全員が社会的養護に理解を示すような家庭などまずなく、無理をすれば家族崩壊も招きかねない危険なものです。こうした家庭的養護と社会的養護の内状を鑑みて、ファミリーホームの在り方を関係各所に提案していきます。

【12月】

●2017年度、ファミリーホームの設立をめざします。

私は2年後の2017年度を目標に、親と暮らせない子どもたちの養育支援を中心にした「子どもサポートホーム（ファミリーホーム・旧称：小規模住居型児童福祉施設）」に残りの人生の軸足を移すことにしました。「子どもサポートホーム」は、生活と仕事が一体となった新しい生き方の提言です。この「子どもサポートホーム」では「子どもデザイン教室」の教育支援機能と「子どもデザイン基金」の寄付支援機能を融合した新しい形のファミリーホームを提案したい考えです。

【2月】

●2人目の子どもと暮らし始めます。

2015年3月から2人目の子どもと一緒に暮らすことが正式に決まりました。実子2人と6人家族になります。半年間の助走期間を経て、初めて違うお家のお子さん2人と同時に暮らすことになります。これからの家族のあり方を社会に提案していきます。

【3月】

●2人目の子どもとの暮らしが始まりました。

これから3月23日は私にとって記念日の一つとなるでしょう。この日、一番下に子どもがやってきました。好きな言葉ではありませんが、いわゆる里子です。里子と私に血縁はなく、いわば水の関係です。でも、夫婦だって考えてみると水の関係です。実子にしても半分は水の関係です。この水を血よりも濃くするものは何でしょう？それは、一緒に暮らすことだと思います。ケンカしたり、怒ったりもするでしょう。それでも一緒に暮らすことだと思います。バラバラになる家族がある一方で、こうして何とか一緒になろうとする家族もあります。血よりも濃い水になる、そんな決意で溢れています。

これで本年度の事業は全て終了しました。紆余曲折、自分の未熟さを痛感し、たくさんの人にご迷惑をおかけしました。また、たくさんの人に支えられました。次の一年も、親と暮らせない子どもたちの未来を照らす「小さいけど明るく光るランプ」になれるよう、さらに創造し、努力し、そして、社会に発信し続けて参ります。いつも子どもたちにいっていますが、諦めない限り夢は必ず叶います。皆さま、本当にありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 子どもデザイン教室
代表理事 和 田 隆 博
〒546-0035 大阪市東住吉区山坂4-5-1
TEL 06-6698-4351　FAX 06-6698-4352
MAIL info@c0d0e.com　URL c0d0e.com
●2014年8月に引っ越しました。

平成26年度 決算報告書

平成２６年４月１日から平成２７年３月３１日まで

特定非営利活動法人 子どもデザイン教室

収入の部		支出の部	
前期繰越金	3,901,497	1 事業費	
		子どもデザイン教室事業	2,400
1 受取会費		ファンドレイジング事業	169,609
会員受取会費	1,483,475	広告デザイン事業	0
2 事業収益		2 管理費	
子どもデザイン教室事業	41,300	人件費	2,734,489
ファンドレイジング事業	1,149,496	法定福利費	424,198
広告デザイン事業	2,399,765	福利厚生費	4595
		外注費	1,169,401
3 受取助成金		荷造運賃	70,844
補助金	138,333	広告宣伝費	45,940
		交際費	26,906
4 受取寄付金	2,299,131	会議費	24,922
		旅費交通費	194,664
5 その他の収益		通信費	311,919
受取利息	496	販売促進費	170,500
		消耗品費	907,965
		事務用品費	3,236
		修繕費	2,811
		水道光熱費	107,791
		新聞図書費	16,224
		諸会費	32,350
		支払手数料	258,077
		車両費	1,771
		地代家賃	1,176,000
		賃借料	2,800
		租税公課	19,072
		画材費	13261
		謝金	13,000
		支払利息	35,953
		次期繰越金	3,472,795
合　　計	11,413,493	合　　計	11,413,493

上記の通り相違ありません。　　会　計　　和　田　隆　博

平成26年5月29日　　監　事　　今　中　博　之